

7月26日 原稿 能城一郎

タイトル：三つの再発見

聖書箇所：イザヤ 43：1、詩 8:5、エフェ 2:10。

【新共同訳】

イザヤ

43:1 ヤコブよ、あなたを創造された主は

イスラエルよ、あなたを造られた主は

今、こう言われる。

恐れるな、わたしはあなたを贖う。

あなたはわたしのもの。

わたしはあなたの名を呼ぶ。

1.信頼の再発見

旧約聖書を読むと、天地創造の神により選ばれたイスラエル民族は、様々な国難に出会います。イザヤ書の背景にある「バビロン捕囚」は、イスラエル民族にとって最大の国難と言えます。この国難に際して、「今、こう言われる」と、預言者は、大患難の時代に向けての信仰について語っています。

「恐れるな、わたしはあなたを贖う」は、新生の体験をされた皆さんですから、「十字架の贖い」を思い起こされる事と思います。罪に囚われていた人が、その罪から解放され、新しい人となり、そして、神と共に生きるようになります。人と人とが共に暮らすためには、お互いを良く知り、そして、お互いを親しみを込めて呼び合う必要があります。深い親しみ、あるいは、深い信頼関係がなければ、「あなたはわたしのもの」とは、絶対に言えるものではありません。「わたしはあなたの名を呼ぶ」は、神からのイスラエル民族に対する呼びかけです。この呼びかけの声は、バビロン捕囚で遭遇するそれぞれの苦悩に慰めと励ましを与える、適切な愛と安らぎに満ちたことばであった事に間違いはありません。

第一の再発見は、それぞれの「恐れ」に対して、愛と安らぎに満ちたことばで呼びか

けてくださる神様への信頼でした。「あなたはわたしのもの」と呼びかけてくださる主に信頼し、すべてをゆだねて、歩み続けてまいりましょう。

2.感謝の再発見

詩 8:5 そのあなたが御心に留めてくださるとは
人間は何ものなのでしょう。
人の子は何ものなのでしょう
あなたが顧みてくださるとは。

詩編 8 篇 5 節は、神様が自分の事を心に留めてくださっている事への驚きの発見から始まっています。最初の「そのあなたが」の「その」は、4 節の「あなたの天を、あなたの指の業をわたしは仰ぎます。月も、星も、あなたが配置なさったもの。」から続いている、天地万物の創造主の偉大さを表しています。

「人間は何ものなのでしょう」に対する驚きの動詞は、「心に留める」です。天地万物、人間の創造主の神様は、人間社会を見渡しておられるのではないのでしょうか。「人の子は何ものなのでしょう」に向き合う驚きの動詞は、「顧みる」です。英語では、「訪れる、訪問する」、visit が使われています。靴屋のマルチンの物語を皆さんは、ご存知であると思います。この物語は、悲しみに暮れ、自暴自棄になったマルチンが、友人のすすめで聖書を読み、眠りにつきます。すると、イエス様が、マルチンに「あしたあなたに会いに行く、あなたの家を訪れる、家に遊びに行くよ」と語りかけます。詩編 8 篇の作者は、驚きをもって、偉大な神様が自分のような者のところに「訪れてくださる」、「顧みてくださる」と記しています。この状況のなかで、「みことばの訪れ」が、私たちの心の奥底にあるならば、それは、驚きであり感謝しなければならないことではないのでしょうか。第二の再発見は、感謝の再発見でした。天地万物の創造主である神様が、私を、皆さんを「心に留め」、苦しみ悩む時、主が「訪れて」「顧みて」くださるのです。なんと感謝なことでしょうか。



3. 善い業の再発見

(1717)の信徒への手紙)

エフェ 2:10 なぜなら、

わたしたちは神に造られたものであり、

しかも、神が前もって準備してくださった善い業のために、

キリスト・イエスにおいて造られたからです。

わたしたちは、その善い業を行って歩むのです。

「信頼」と「感謝」は、心の問題でした。最後は、隣人に対する行為に関わる事です。「善い業」は、イエスキリストの十字架の贖いを信じて、新生の体験をしたクリスチャンのことを想い書かれています。不思議なことに、「善い業」は、「神が前もって準備してくださっている」と、今風の言葉では、神様からの「サプライズ」ということでしょう。このサプライズの善き業を、パウロは、最後の行で、「その善い業を行って歩むのです」とすすめの言葉を書いています。

「その善い業」の「その」には、英語の定冠詞のTheではない、特別な強調の指示代名詞が使われています。パウロは、「善い業」とは何かを熟慮する習慣を身に着けておくことをエペソの教会の人々にどうしても伝えておきたかったのです。

2020年7月の四連休は、今日で終わろうとしています。しかし、緊急事態宣言中のように、自粛自衛の行動をとらなければならないという日々はまだ続きます。今、私たちは、「神が前もって準備してくださった、その善い業」を行ってゆかなければなりません。お互いが隣人に対してなすべき「善い業」について「考え」、「工夫し」、「努力する」ことが必要ではないでしょうか。いつもよりも緊張感をもって、「善い業」について「考え」、「工夫し」、「努力する」ことは、祈りと同じように私たちの霊性を高める心地よいものであると私は信じています。靴屋のマルチンは、イエス様の訪れを待つ間、出会う

人々に誠心誠意に善き業をしました。そして、ついに、その善き業の一つ一つの背後にイエス様がおられ、自分は、イエス様と共にいたことを知ったのです。第三の再発見は、善いわざの再発見でした。

お祈りを致します。